



## 「12年の時を経た約束」

受賞者：坂倉 喜代美さん

以前勤務していた部署のスタッフから、12年前に外来で化学療法を受けていた患者が、その当時担当していた看護師を訪ねてきていると連絡があった。その人は約束していた絵本を持ってきたと言っていると聞き、私はハッとしました。12年前、悪性リンパ腫で化学療法をしていたNさんだとすぐに記憶がよみがえった。

当時私は、がん化学療法看護認定看護師を取得し外来化学療法室で勤務していた。Nさんは突然のがん告知から始まり、抗がん剤の副作用でかなり落ち込まれていた。副作用の対処方法を指導しながら、なんとか元気を出してもらいたいと思っていた。今までの生活や気がかりなどを伺いながら「Nさん、元気になったらやりたいうことはありますか?」と問いかけた。最初は「何も思いつかないです」と返答だったが、次の治療に来られた時、Nさんから「やりたいことありました。亡くなった娘の詩を絵本にすること。ずっと前に思っていた事を思い出しました」それまで

暗い表情だったNさんがとても明るい表情で語られ、私もNさんの希望を応援することを誓った。その後治療を終えたNさんとお会いすることはなかった。

そのNさんが12年の歳月を経て絵本を持って会いに来てくれたのだ。絵本にはNさんからのメッセージが添えられていた。

「当時は状況に押しつぶされそうな失意の底を彷徨いながら訪れた中、丁寧に対応される温かなお人柄に感謝して話すうち、昔奥深くしまい込んだ小さな夢を語る自分に驚きました。でもその会話が光となり励みとなって、今日の生活と命に繋がっているように感じております。あの時、その後の生きる望みとなった会話と素晴らしい出会いに感謝いたしております」

私は今年度で定年を迎える。私はいつも目の前にいる患者に私のできることはないかを考えて仕事してきた。患者の思いに寄り添い希望を支えることはとても大事な看護だと後輩に伝えたい。